

山陰は雪山の宝庫

～雪山を安全に楽しく登ろう～

2022年4月 藤井諭

山陰は雪山の宝庫であり、近くの山で楽しむことができる。純白の雪山は美しく、雪を歩く感触はこたえられない。普段はないルートを歩けるのも魅力である。今シーズンは、近郊の八山の雪山登山を行なったので紹介する。山陰の雪山の魅力が伝えられ雪山の愛好者が増えることを期待したい。

大出日山（おおしびさん）

2021年12月28日(火)曇 単独。今シーズン初めての雪山は大出日山だった。荒天の合間を狙って午後に出発しスノーハイクを楽しんだ。大出日山は近郊の山では雪が深く、手軽に雪を楽しめる貴重な山だ。雪の止んだ直後で、予想通りまだ誰も入っていなかった。今シーズン初のスノーシューで、ラッセルを楽しむ事が出来た（写真）。一人ラッセルは体力を要し、時間も無雪期の倍以上かかる。積雪30センチにスノーシューもググッと鳴って潜り、汗が出てくる。この感触がたまらない快感なのだ！



8合目からは真っ白な山王寺集落や、雪を被って白い大東から加茂までの街並みが望まれた。午後に出発だったため、ここでタムアップとなり下山した。シーズン到来の試運転で、雪の感触を十分に味わえたスノーハイクだった。半日の空き時間でも近所の山でスノーハイクが楽しめる、これが山陰の雪山の魅力でもある。

大人山（だいにんさん）

1月15日(土)晴 単独。午後出発し、新雪のスノーハイクを楽しみに奥出雲の大人山に登った。予想通り誰も入った形跡がなく、一人ラッセルで快適に山頂に至った。その帰りに山頂下の展望台で、木次線の撮影を行った。お目当ては雪原の木次線を走る赤い汽車の撮影（写真）、本日は撮り鉄だ。無事に撮影出来て安心しそのまま下山、大東まで帰ったところで三脚を忘れたことに気が付いたがすでに時遅し！



12日後の2022年1月28日(金)午後、置き忘れた三脚を回収に再び大人山へ行った。雪はほとんど消えていたが、最近2人組が登った足跡があった。忘れ物は同じ場所に同じ形で残っていた。うれしい！何人の登山者の目に触れたが判らないが、そっとしておいてくれる出雲の国の登山者は温かいと思った。

玉峰山

1月22日(水)晴 MHC 藤原さんと2名。1月からクラブ山行がコロナで停止となり、個人山行で冬山装備を新規購入された藤原さんを雪山に誘って行った。雪の日の合間の好天を狙って玉峰山へ。玉峰山荘から尾根に取り付きラッセルを開始した。

目次さん達白樺クラブ6人、吉本さん達神名火山の会3人など、パーティが4組も登って来たのには驚いた。積雪は50cm、各パーティでラッセルを交代しながら、汗をかいて山頂に至った。山頂で皆そろってのランチタイムだった(写真)。



玉峰山荘から山頂までの尾根沿いのルートは長い。去年は単独で途中力尽きて引き返したが、今年はその雪辱を果たせて良かった。山頂まで3時間半、無雪期の倍の時間だった。長い雪のルートでは交代しながらラッセルできると効率よい。玉峰山荘はコロナ禍の中の営業で車10台程だった。

三郡山

2月3日(月)曇 単独。雪の合間の穏やかな日に単独で登った。山麓の大聖は雪が残っていたが、登山口駐車場まで車が入れた。三郡山は無雪期に何度も登っているが、雪山では初めてだった。普段は易しいハイキングの山が、雪が積もるとラッセルで手ごたえある山に変貌する。わずかなトレールも尾根に取り付くと風雪で消え、積雪70cmのラッセルとなった。

山頂は雪に覆われ、純白で美しかった(写真)。風もなく雪の山頂が暖かい。穏やかな天気の良い山頂で温かいランチが美味しかった。南に先日ラッセルした玉峰山、陽光に浮かぶ吾妻山と比婆山、北に出雲北山と宍道湖・中海の大展望が望まれた。コースタイムは登3時間で無雪期の倍かかり、一人ラッセルがきつか



った。そうして苦勞して山頂に立つと満足感はより大きい。翌日は筋肉痛、これがまたたまらないのだ！

烏ヶ山（雪山訓練）

2月28日(月) 曇時々晴。参加者：L藤井、香川、小畑、藤原 以上4名

訓練内容：雪山を始めた初級者を対象に

1. ワカン歩行
2. キックステップ
3. 滑落停止
4. グリセード
5. アイゼン歩行

新小屋峠から1230mピークへの途中で、手ごろな急斜面を見つけて踏み固め停止棚を作った。2. キックステップはツボ足で菱形に上下歩行、谷側の足の置き方がポイントだ。登りはつま先、下りは踵！

3. 滑落停止は耳がピッケルに密着する程にピッケルに体重をかける（写真）。

4. グリセードは尻セードじゃない。登山靴がスキーでピッケルがストックだ！

5. アイゼンは雪面に対しフラットに！

最後に1230mピークまで実地訓練：ピッケルは登りと下りで持ち方を変える。下りは滑落停止に備えた握り方で。2時間の基礎訓練と3時間の実地訓練はハードだったが、積雪2mと好天に恵まれ参加者には満足いただけたと思う。



大万木山

3月8日(火) 晴 単独。残雪の大万木山を一周した。

青空の好天で絶好の雪山登山日だった。最終民家の上で車止めとなっていたが、夏に崩壊した道路は修復されていた。門坂コースは数日前のワカン2人のトレースがあった。地蔵尊からは沖ノ郷山が白く、三瓶山は霞んで見えた。

大万木山の山頂は積雪1mに埋もれていた（写真）。溪谷コースはトレールがなく、雪崩の心配もありやめた。権現コースはタコブナから先はトレールなく、昨年8月このルートを歩いた記憶を頼りにラッセルして進んだ。



新聞に掲載された雪庇の跡を見つけた！約50m続く雪庇ツアーの場所だった。権現岩の急下降はロープが雪に埋

もれて使えないため、迂回をして谷の急斜面を慎重に下った。ストックでは滑落に対処できないため、ピッケルがとても欲しかった。

登山道は雪に埋まって見つけにくく、GPS が頼りだった。最後の鳥居で大万木山一周を完了し、無事下山できたことを大万木権現に感謝した。

吾妻山

3月16日(水) 快晴 単独。新雪の吾妻山にMHCで登った記憶が蘇る。2019年1月の大膳原で12人、スノーシューとワカンのラインダンスをしたことを思い出す。

3月の残雪吾妻山は今回が初めてだった。MHCの3人が3日前に登られたが天気が悪く大膳原までで山頂は断念している。この日は快晴の青空と白い残雪のコントラストが素晴らしかった。大峠を起点とし大膳原に登り着くと、青空の下で広々とし開放感に溢れていた。雪が眩しくサングラスを着けた(写真)。



残雪期の歩行には、スノーシューが潜りを防いで楽に進み有効だ。山頂に向かって直登するコースは積雪期ならではの醍醐味があった。山頂からは雪の猿政山、大山、比婆山が雄大だった。登りは安定していたが、スノーシューの急な下りは滑った。バランスをとって滑りながらグリセードのように下った。登山者は途中で交差した3人パーティのみの静かな山行だった。

烏ヶ山

3月27日(日) 晴 単独。積雪は1mで朝は雪が閉まり、青空の元快適な雪山登山となった。2月末に4人の雪山訓練で登った1230mピークからの烏ヶ山は、主峰の雪がなくなり黒々としていた。ここでスマホがないことに初めて気づいた。途中でGPSをチェックしてワカンに履き替えた時に置き忘れたようだ。ポカだ！引き返して取りに行き登り返すのに、1時間以上のロスと体力消耗をしてしまった。

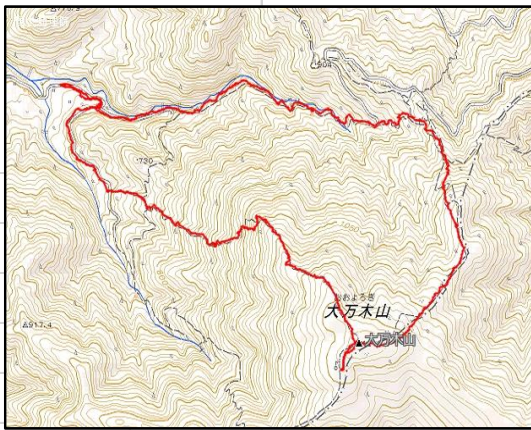
主峰は諦めせめて南峰までは、と気持ちを切り替えて登った。1300mピークからの南峰、主峰、北峰の山容は巨大なカラスがまさに羽ばたく様だった。2月27日(日)にMHCの7人が個人山行で1300mピークまで登られている。1300mピークで出会った男女3人は途中からスノーボードで下って行った。



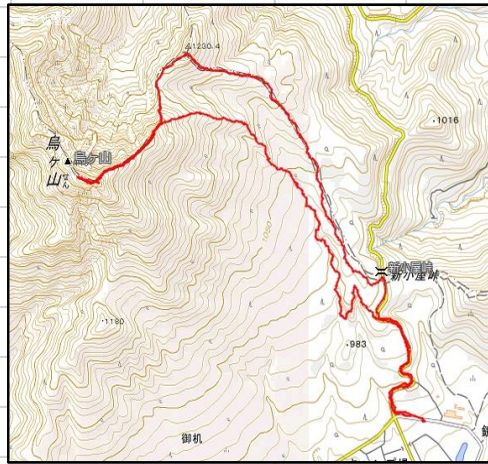
南峰直下の雪の急壁は、ピッケルとアイゼンをしっかり効かせて慎重に登った。ピッケルを強く刺すと積雪1mでよく効いた。南峰からは主峰が黒く奥の大山は白く、その対比が面白かった(写真)。

南峰からキャンプ場へのルートは通行禁止だった。大回りでも新小屋峠へ下るしかない。雪壁は滑落停止がいつでもできるように体制を整えて着実にクリアできた。1300m ピークでエネルギーを補給していると、若い登山者が主峰から降りて来た。ピーク下からは支尾根を下って行った。1230m ピークへの登り返しは辛くここを下ることにした。長い下りだがワカンに履き替えて潜ることなく歩行できた。谷へ下って谷沿いに進み、尾根に登り返して車道に出た。これは積雪期にしか使えないルートだ。とても疲れたが無事に下山し充実感に浸った。

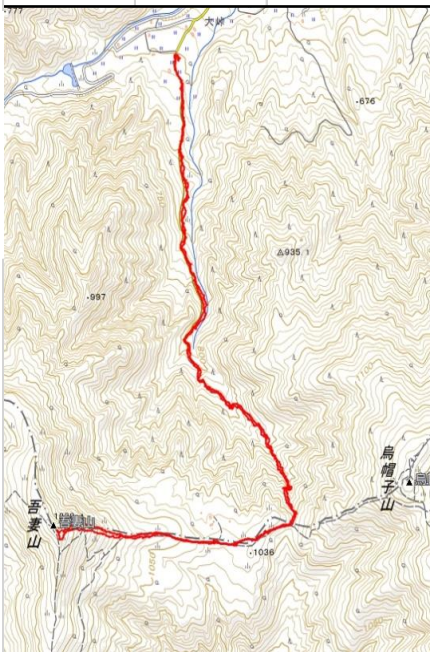
トレース図



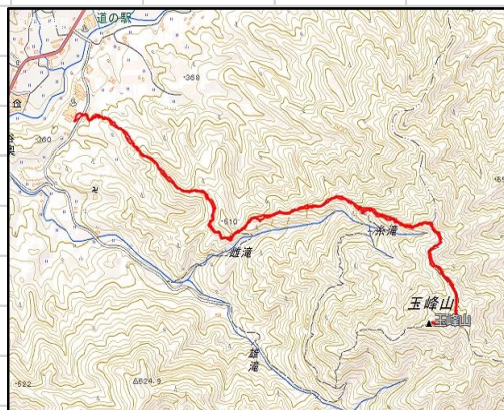
雪の大万木山トレース図



残雪烏ヶ山トレース図



残雪吾妻山トレース図



新雪玉峰山トレース図

GPS を使ったトレース図は登山記録として大いに役立つ。トレース図を見てルート選択が正しいか、目的地に着く時間はどうか等が判断でき遭難防止に役立つ。これから計画される登山者にとっては計画書作成に役立つ。

1. 大万木山

民家の上からスタートし門坂から地蔵尊を経て山頂に至った。下山に溪谷コースは踏み跡がなく雪崩の心配もあり止めた。権現コースは尾根沿いのため雪崩の恐れはなない。タコブナから下りた所に雪庇の跡を発見、これが雪庇ツアーの地点だった。権現岩はロープが雪に埋まり危険なため、左に回りこんで急坂の谷を下った。深い雪に覆われた登山道の判別は難しく、GPS で確認しながら鳥居のある林道へ下った。

2. 烏ヶ山

新小屋峠から尾根沿いに 1230m ピークに至った。南峰の直下は急坂の雪壁で滑落しないようピッケル、アイゼンで登った。キャンプ場へ下山コースは通行禁止だった。1300m ピークから下った支尾根にトレールがありワカンに履き替えて進むと谷に降りた。谷沿いに進み最後は尾根に上がって車道に出る。GPS で確認しながらの積雪期限定コースだ。

3. 吾妻山

大峠を基点に登った。長く伸びる林道を途中からスノーシューに履き替えた。大膳原から山頂までほぼ真直ぐに歩行跡があり、積雪期にしかできない直登コースは爽快だった。ラッセルで無雪期の倍の時間かかり登り 4 時間、下り 2 時間だった。

4. 玉峰山

深雪の玉峰山は、玉峰山荘からの尾根沿いに登るルートが雪崩の心配なく安全である。長いコースとなるため昨年は一人ラッセルで途中までだった。今回は 3 パーティに出会い、ラッセルを交代しながら山頂に至ることができた。人数が多ければラッセルは分担できる。無雪期の倍で登り 3 時間半、下り 2 時間かかった。

雪山登山は装備の使い方がポイント

ワカンは手軽に入手できて雪山で大いに役立つ。急坂の山でも緩斜面の山でも深雪に対処でき下りにも強い。烏ヶ山や大万木山に有効だ。スノーシューは緩斜面の山では誠に快適である。吾妻山や大出日山で役立つ。ただし下りの急斜面では滑るため、ストックでバランスを取り滑りながら降りた。

雪壁のある山ではピッケルとアイゼンが不可欠だ。烏ヶ山では南峰の雪壁で登りはピッケルを深く刺して支点とし、下りはピッケルでの滑落停止に備えた。この 3 月 6 日に大山夏道 6 合目付近で登山者が 300m 滑落する事故があった。ピッケルがなかったため滑落停止ができなかった。アイゼンは急斜面には不可欠だが、緩斜面で潜りが深くなったらワカンに履き替えた方が楽である。

雪山の魅力のもう一つに、普段はないルートを自由に歩けることだ。登山道ではないため地図はなく、スマホ GPS が不可欠である。基本は現在地を確認しながら雪崩を避けて尾根上を進む。迷ったと思ったら GPS を確認し元に戻るよう心掛ける。

おわり